



2021 心に残るEpisode!! 年度退職者

人生は我流を貫く!!



羽場さんとの思い出は仕事よりも、約20年前の12月繁忙期に一緒に行ったハワイ旅行(第30回記念ホノルルマラソン大会参加)が何より印象に残っております。

宮崎 明さん、故宮崎留治さん、後藤大規さん、自分(加藤家3人含む)が約1週間の休暇を頂いて買い物やゴルフ、観光にプール、夜の冒険、フルマラソン・10kmウォーク…他と一緒に満喫でき、これまでの人生においても貴重な時間を過ごす事が出来た「財産」と言えます。

本当に旅慣れている羽場さんには、出発時から手荷物を持たないスタイルでの「手ブラ姿」で先陣を切る、と

でも頼もしいリーダー的な存在感がありました。

ホテルのベッドに徐に観光(ポイント地点)地図を大きく広げ、楽しげに話す姿には仕事(職場)では決して見せない「別の顔」であり、周りに気を配る優しさや行動力には驚かされました。

時折見せる純真さ溢れる行動にも、羽場さんの意外な一面が垣間見え、例えば流れるプールで何度も波と戯れる姿やゴルフカートを自家用車のように乗り回し、飛んでいく打球を追う姿等が「心から出る笑顔」であり、乗馬体験の際にも手慣れた「ムチ」「手綱」さばきが見られ、終始ご機嫌な様子で、日頃の疲れや煩わしさから開放された瞬間でもあったのかも知れません。

普段と変わらない一面も買い物時には見せてくれ、お店のショーケースに立ち『ここからここまでを全部くれ!!』『金額はいくらや!!』その後、お金(ドル札)を束に重ねていき『何枚や、こんだけか!!』勿論すべて日本語です。豪快な買い方をするのは「羽場買い」と呼ばれるほど、ゴミ取り界では有名ですが、対応した店員さん(外人)も笑うしかなく、何処に行っても“羽場流”は健在だと確信した瞬間でした。羽場さんとはコロナ感染症が収束したら、また一緒に退職祝いを兼ねて“ハワイ”に行きたいと思っています。(勝手にですが)ちょうど今年が、ホノルルマラソン(第50回記念大会)になります。私もパスポートを用意(申請)しないと……。

何故今回、自分(加藤)が代わりに文書を書いているのか?と思う方も居ると思います。実は、羽場さんは現在『病氣療養中』であり、とてもペンを持って文字を書く状態にはありません。差し出がましい事は重々承知の上で「思い出話」として書かせて頂きました。

仕事では王畑早苗さんと3人で一緒に乗り組みも経験し、その年の班別集会で「慌て作業(走る行為)をしてるので一緒に仕事するのが大変で困ってます!!」的な事を急に発言され、集会后に羽場さんに対して直接的に激怒して「生意気な発言」をしてしまった事も、何十年過ぎた今でも何故だか忘れられず頭に鮮明に残ってます。(黙って聞いてくれました)心が本当に広い人です。

大好きなゲームも、今はできる状態なのか?分かりませんが、羽場さんの人生観や考え方までを全て分かっている訳ではないですが、きっと、この職場で出会った人達との交流や生活にはゲームなんかよりも、何倍も刺激的かつ魅力的(快適)だったのではないのでしょうか。1日も早く元気な姿で快復されることを切に願っています。

定年を迎え、人生の一区切りです。羽場さん、本当にお疲れ様でした。

加藤一実が(あくまで憶測で)書いたものでありますので、何かあれば「私」に直接お願いします。[情報宣伝部 加藤 一実]

西部管理センター所属 羽場 俊明 [勤続29年] 様へ

これまでを振り返って



高校を卒業後、民間企業に5年間勤めその後、この職場に入っはや37年目になり、退職の時期を迎えることとなりました。

思い返せば、新埋め立て場や、工場などの建設があったり収集形態もさまざまに変化し、粗大ごみの有料化が始まる前には、駆け込みでたくさんのごみが出て、取っても取っても終わらずヘッドライトをつけ、夜遅くまでかかって収集していたこともありました。

また、中越地震や能登沖地震など様々な災害の支援として、現地に派遣で行ったことも昨日のここのようです。

それも、元気な体があってこそ出来ることであって、健康というものがいかに大事かということをも、身をもって感じています。

退職するにあたり、これまで支えてくれた、皆さんに感謝するとともに、新型コロナに負けず元気に過ごせるよう願っています。

再任用で、残り5年間お世話になりますが、今後ともよろしくお願いいたします。

西部管理センター所属 広瀬 秀人 [勤続37年]

定年退職を迎えて



昭和61年4月、職員控室の一番前で挨拶をしたのが、つい昨日の事のように思えます。その時の印象は『うわーすげえ数おる!!』(当時、西部には150人以上いた)

年齢行った人ばっかやな?…でした。今、自分がその年齢になっていて、本当にあっという間だったと思う今日この頃です。

土曜日半日勤務も、平ボデー車で荷をしたのも、年末年始の早朝の応援に出たのも…今ではなつかしい思い出です。

タイヤチェーンの掛け方、直し方や消火器の使い方などを先輩方に教えてもらい、いつしか自分がその立場になって…「ああ、伝統とはこうやって受け継がれていく」ものだと思えました。そして昭和・平成・令和と三つの時代を又にかけて、収集業務に携わるとは夢にも思いませんでした。

自分が定年まで勤める事が出来たのも、数多くの先輩や後輩の皆さんのおかげに他なりません。あたたかい言葉や叱咤激励してもらった事は、ずっと心の中に残っています。

もう少し、皆さんと仕事をさせていただければ、これ幸いに思っています。

最後に、心からの感謝を込めて声を大にして言いたいです。

本当に、ありがとうございました。

西部管理センター所属 高村 正二 [勤続36年]